

農山漁村振興交付金(都市農村共生・対流及び地域活性化対策) 重点指導結果

事業実施主体名: 合同会社Nハウス

令和 3年 8月 26日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	主たる取組メニュー名	取組概要
沖縄県 中城村	平成29年度	福祉農園等整備事業 福祉農園等支援事業	障がい者が作業を行う場合は、雨天時には足元が滑るなどの危険性や安定した農作業ができない等非効率的であったため、平成29年度にパイプハウス6棟を整備。また、収量、収益の増加を目指し、研修や専門家の招へい等を実施。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

【評価委員会での評価コメント】

平成29年度にパイプハウス6棟を整備し、雨天時の作業が可能となり、農産物の安定的な生産ができるようになった。令和元年度は、研修視察を計画していたが未実施。

職員・就労者の退職による人員不足及び新スタッフの経験不足等もあり、売上げ目標は概ね達成したが、就労・雇用の目標は未達成となっている。事業実施主体の取組自体には高い社会的意義はあることから、整備済みのパイプハウスの利点を活用し、目標達成のために取組むことを期待する。

【目標達成に向けた指導・助言等】

就労・雇用及び売上げの目標達成のため、まずは早急に人員の確保を図られたい。併せて、作業内容の工夫等により営農の効率化を図られたい。さらに、新規作物の導入・定着が円滑に図られるよう、栽培技術や販路確保のノウハウの習得に努められたい。

2. 低調と評価された要因

職員、就労者の退職による人員不足やスタッフの技術不足等により、適切に事業実施できる体制が整っておらず、目標達成に至らなかった。

3. 目標達成に向けた方策

1. 利用者を増やすため、送迎ルートに入っている相談事業所への訪問セールスを実施。
2. 就労の目標達成のため、新たにB型事業所の申請も行っており、作業の難易度に応じてA型とB型に振り分け作業量の増加に取り組んでいる。
3. 令和元年度は害虫の被害が多かったため、新たにハウス内での害虫被害の少ない作物の栽培の検討を実施。
4. 継続して栽培している作物についても、乾燥防止や回転率の調整等を実施。農業指導員や農業研修等を活かして生産量の増加に取り組んでいる。

4. 改善状況

実施体制については、職員や利用者の事情により計画当初から変更はあったものの、利用者の増加に向けて新たな体制で取組を実施。目標達成には至らなかったものの、就労者は昨年度時点より3名増加した。

また、利用者数の増加が定植数・出荷量の増加につながり、売上げの目標を達成した。

パイプハウスを活かした夏場の葉野菜の生産により売上げは上昇している。

栽培に関する技術面についても、農業指導員からの指導や研修等を活かし、これまでの失敗を生産増加に繋げられるよう取り組んでいる。